一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院
麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う。患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

福島県中通りの中核（福島県郡山市　人口 33 万人）に位置し、急性期医療のみならず脳血管障害や循環器疾患、がん治療に力を入れて診療を行っている。救急車搬入件数は年間 6500 台、麻酔科管理件数は 4800 件となっている。神奈川県川崎市にあるグループ病院の新百合ヶ丘総合病医院との連携にて、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

本研修プログラムでは、地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とし、研修終了後は、日本の地域医療の担い手として国内の希望する施設で就業が可能となる。

3. 専門研修プログラムの運営方針

基本方針は以下の通りである。

広く一般的な全身麻酔症例のみならず、夜間緊急症例や重症症例の経験ができるように適宜配慮する。前半２年間は、麻酔全般、幅広く経験できるように配慮する。
３年目、4 年目では、小児麻酔、産科麻酔、心臓麻酔、集中治療、ペインクリニック
などのサブスペシャリティ領域の経験を加える。

研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験すべき目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。
目標を達成できることが前提であるが、自由度の高い研修となるように配慮したい。

専攻医個々の経験目標症例数の達成状況や要望などに応じて，責任基幹施設および研修関連施設での勤務時間やローテーションは，本人の意向を最大限配慮し柔軟に対応するものとする。

研修実施計画 例

	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目
A	総合南東北病院 （手術室一般症例）	総合南東北病院 （心臓血管外科 脳神経外科）	新百合ヶ丘総合病院 （麻酔全般）	総合南東北病院 （特殊麻酔症例 ペイン、緩和など）
B	総合南東北病院 （手術室一般症例）	総合南東北病院 （心臓血管外科 脳神経外科）	福島県立医科大学 （麻酔全般）	総合南東北病院 （特殊麻酔症例 ペイン、緩和など）

A パターン：3 年目で福島県立医科大学をローテーションする場合
B パターン：3 年目で新百合ヶ丘総合病院をローテーションする場合

週間予定表 例
当直業務の負担を考慮し、業務明けはデューティーフリーの体制をとっている。

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	外来	手術室	手術室	月 1 回 勤務	月 1 回 勤務
午後	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	月 1 回 勤務	月 1 回 勤務

＊なお、week day は朝8時からのカンファレンスを行なっている。
また、週末や祝祭日は基本的に休日となっている。

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院（以下，総合南東北病院）

研修実施責任者：服部　尚士

専門研修指導医：服部　尚士（麻酔、心臓麻酔専門医、ペインクリニック、輸血療法）
管　桂一（麻酔、ペインクリニック、救急・集中治療）
小西　晃生　（麻酔、心臓麻酔）
埜口　千里　（麻酔、ペインクリニック専門医、集中治療）
大槻　理恵　（麻酔）
島津　勇三　（麻酔、ペインクリニック、心臓麻酔、ICD）

専門医：足立　国大　（麻酔、心臓麻酔専門医、区域麻酔）
杉田　直人　（麻酔）
川向　俊朗（麻酔）

専攻医：石本　昇太郎
関川　美沙

院内協力科　（救急集中治療科）
比留間　孝宏　（麻酔科指導医、救急指導医、集中治療専門医）

日本麻酔科学会麻酔科認定病院　第 784 号

特徴：

本院は、救急医療とがん治療（放射線治療を含む）に力を入れているため、多種多様な全身麻酔管理を 4 年間の研修プログラムの中で十分に経験することが可能である。

具体的には一般的な手術症例は、偏りが少なく一般外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓血管外科などの症例を幅広く経験することができる。最近では、開腹開胸手術だけでなく、ロボット支援下での手術（肺、食道、胃、肝臓、大腸、婦人科、前立腺）の症例数が著明に増加している。脳神経麻酔では従来の開頭手術症例（脳腫瘍、血管障害）に加え、血管内治療（コイル塞栓術や動静脈瘻）の麻酔管理も増加傾向にある。

一方で、超音波装置も4台手術室に常備し超音波ガイド下神経ブロックなどの区域麻酔も積極的に行っている。また、2016 年より外来通院での小児がんに対する陽子線治療の鎮静管理と精神科病院との提携のもと統合失調症や双極性障害患者に対する修正電気けいれん療法の全身麻酔管理も積極的に担っている。

心臓血管麻酔認定施設であり、心臓血管麻酔専門医2名と3名の JB-POT 認定医が在籍し、TEE を含め心臓血管麻酔の臨床/教育にも熱心である。

救急集中治療科との連携が密であり集中治療研修も配慮することが可能となっている。

～関連研修施設の指導体制～

〇新百合ヶ丘総合病院

研修プログラム統括責任者:伊藤 寛之

専門研修指導医:伊藤 寛之(麻酔, ペインクリニック)
中西 英世(麻酔, 緩和医療)
上田 佳代(麻酔, 小児麻酔)
土居 朗子(麻酔)
山崎 祐子(麻酔)
木村 真也(麻酔, 心臓麻酔)
華山 悟 (麻酔, 心臓麻酔)
浅野 麻由(麻酔, 心臓麻酔)
根波 朝陽(麻酔)
伊藤 由莉(麻酔)
金岡 由紀(麻酔)
坂口 了太(麻酔, 集中治療)

専門医: 冨田 知恵(麻酔)
宍井 美穂(麻酔)
太田 昇吾(麻酔)
米田 誠 (麻酔)

専攻医: 郡家 慶浩
一井 利文
櫻井 隆行
來住野 翔
九本 将文

麻酔科認定病院番号:1598

特徴:新百合ヶ丘総合病院は, 川崎市北部医療圏における高度急性期病院として, 2012年8月に開院した総合病院です. 救急車受入年間約9000台, 病床稼働率約96%, 外来患者数1日平均1100名を超え, 現在全身麻酔下において手術のできる手術室が14室あります.

また救急センターの施設拡充により, 応需率向上・受入重症度／対応疾患の拡大に取り組み, 地域にさらなる貢献ができるよう, 体制を整えました.

手術前には患者さんの全身状態をチェックし, 合併症の改善, 全身状態の安定を図り,

より良い状態のもと手術に臨んでいただけるようにします．また丁寧な説明を心掛け，患者さんの術前の不安を取り除くように取り計らっています．

〇福島県立医科大学附属病院

研修プログラム統括責任者：井上　聡己

専門研修指導医：井上　聡己（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

小原　伸樹（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

箱崎　貴大（麻酔、集中治療）

佐藤　薫（緩和医療、ペインクリニック）

中野　裕子（ペインクリニック、麻酔）

細野　敦之（麻酔）

大石　理江子（麻酔、ペインクリニック）

小川　美穂（麻酔）

江花　英朗（麻酔）

吉田　圭佑（麻酔、集中治療）

野地　善恵（麻酔）

髙木　麻美（麻酔、緩和医療）

石堂　瑛美（麻酔、緩和医療）

長谷川　貴之（麻酔、集中治療）

藥師寺　たつみ（麻酔、集中治療）

城田　さつき（麻酔）

髙月　沙織（麻酔）

麻酔科認定病院取得　第0021号

特徴：集中治療、ペインクリニック、緩和医療の研修可能

7. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は麻酔科専門医の資格を取得することを前提とし、日本専門医機構に定められた方法（厳守のこと）により、期限までに（専門医機構より発表あり次第 HP に掲載予定）志望の研修プログラムに応募する。

日本専門医機構に定められた方法以外での応募は認められない。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、電話、E-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

総合南東北病院麻酔科: 服部尚士
〒963-8051 福島県郡山市八山田 7-115
TEL 024-934-5322
E-mail: arusoui@me.com

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4 年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の 4 つの資質を修得した医師となる。

1)十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2)刻々と変わる臨床現場における適切な臨床的判断能力、問題解決能力
3)医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
4)常に進歩する医療・医学に則して, 生涯を通じて研鑽を継続する向上心。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

② 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能, 態度を備えるために、別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して, 原則として研修プログラム外の施設での経験症例は、算定できないが, 地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料「麻酔科専攻医研修マニュアル」に定められた1)臨床現場での学習、2)

臨床現場を離れた学習、3）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、
技能，態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・
態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2の患者の通常の
定時手術に対して、指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる。

また 1 年目から 2 年目にかけて、専門医取得に必要な学会発表や論文の投稿を積極的
に行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA3の患者の周術期管
理や ASA1～2の緊急手術の周術期管理を指導医の指導のもと、安全に行うことができる。
加えて、心臓血管外科（開心術や大血管手術）や脳神経外科などのハイリスクの麻酔を指導
医の指導のもと麻酔管理することができる。

専門研修 3 年目

心臓血管外科、胸部外科、脳神経外科に加え、帝王切開手術、小児手術などを経験し、
様々な特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。

専門研修4年目

3 年目の経験をさらに発展させ、麻酔科専門医取得に必要な症例の経験を完了する。また、自身で考え指導医と議論しより良い周術期管理することを目標とする。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例や緊急時などは適切に上級医をコールして患者の安全を守ることができる。加えて、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を習得する。